

# 阪神大水害に関する災害情報デジタルアーカイブの構築に向けた実践的取り組み

Practical action for the construction of the disaster information digital archive about the Great Hanshin Flood of 1938

○喜田悠太郎<sup>1</sup>, 折橋祐希<sup>1</sup>, 浦川豪<sup>1</sup>, 森永速男<sup>1</sup>  
Yutaro KIDA<sup>1</sup>, Yuki ORIHASHI<sup>1</sup>, Go URAKAWA<sup>1</sup> and Hayao MORINAGA<sup>1</sup>

<sup>1</sup>兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科  
Graduate School of Disaster Resilience and Governance, University of Hyogo

Several disasters including the great Hanshin flood of 1938 and the great Hanshin-Awaji earthquake of 1985 were occurred in Hyogo Prefecture. Since the great Hanshin flood, construction works including forestry and flood control have been propelled to make a strong city regarding storm and flood damage. On the other hand, residents with experience of the disaster have been decreased sharply at the present 80 years elapsed from the disaster. Thus the succession and transmission of the information on the disaster is essential. This research aims to establish a digital archive in order to inherit memories and records from the disaster survivors through interview and fieldwork by junior high and high school students.

**Keywords :** great Hanshin flood, disaster information, digital archive, interview, fieldwork

## 1. はじめに

1938年(昭和13年)7月3日から5日にかけて、台風に刺激された梅雨前線が西日本に停滞し、神戸市を中心に集中豪雨が発生した。3日夕方から降り出し3日当日の降水量は49.6mm、4日には141.8mmを記録し、5日になっても雨の勢いは衰えることなく、午後1時20分に降り止むまでに270.4mm、3日間の総雨量は461.8mm<sup>1)</sup>であった。この総雨量は当時の神戸市の年間降水量の約3分の1にあたる<sup>2)</sup>。この影響で六甲山の各所で土砂崩れが発生し、市域の河川が氾濫すると同時に、巨石や流木、土砂の入り混じった土石流が神戸の市街地に流れ込んだ。神戸市における被災家屋は89,715戸、死者は616名<sup>1), 3)</sup>と甚大な被害となった。この集中豪雨による近隣の被害も含めて阪神大水害と呼ぶ。

この経験を受けて、神戸市東灘区に「直轄六甲砂防工事事務所」が開設された。昭和14年度からは、国が直接、砂防工事をする事となり、昭和16年2月に砂防えん堤第1基「城山えん堤」が完成した<sup>4)</sup>。平成23年3月末現在では、524基の砂防えん堤が整備されており<sup>5)</sup>、土石流が発生した際にはこれら整備による効果が発揮されている。

そのような甚大な被害をもたらした災害にもかかわらず、水害から80年が経った今残されている、記録はアナログ媒体のみであり、それらの多くは共有されていない状況にある。また、当時を経験した人が激減していることもあり、この災害に関する情報(記憶と記録)の収集と教訓の継承が必要不可欠となっている。

本研究では、中・高生を対象とし、語り部との口述のコミュニケーション(インタビュー)や、それに基づく被災地フィールドワークを通じて、被災体験者の記憶や記録を次世代へと継承していくためのデジタルアーカイブ(表1)の構築について述べる。

表1 デジタルアーカイブと伝承のプロセスについて  
デジタルアーカイブと伝承プロセス

	住吉川流域	生田川 宇治川流域	都賀川流域	新湊川流域	
体験(語り)	体験談の語り	体験談の語り	体験談の語り	継承者からの語り	伝承 学び
聞き手	住吉中学校	渚中学校	渚中学校	神戸常盤女子高校	
アーカイブ 手段	ワークショップ	まちあるき	まちあるき	ワークショップ まちあるき	デジタル アーカイブ
アーカイブ プロセス	対話 既存データ入力	対話 既存データ入力	対話 既存データ入力	対話 既存データ入力	
アーカイブ ツール	Webブラウザア プリアプリ	Webブラウザア プリアプリ	Webブラウザア プリアプリ	Webブラウザア プリアプリ	

## 2. 阪神大水害の記憶の継承の概要

国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所(以下六甲砂防)との協働で実施したワークショップやフィールドワーク(まちあるき)、この水害の経験者や継承者の口述によるコミュニケーション(インタビュー)の概要は以下の通りである。

### (1) 各流域におけるフィールドワークの実施概要

ワークショップやまちあるきはそれぞれの流域ごとに実施した。その内容について以下に示す。

#### a) 住吉川流域(神戸市東灘区)

- ・日時: 2018年7月23日(インタビュー実施日)
- ・対象: 神戸市立住吉中学校 生徒会生徒5人

住吉川流域に位置する住吉中学校で阪神大水害の勉強会を開催した。講師は六甲砂防が派遣した砂防の専門家であった。生徒たちは阪神大水害の概要や当時の被害の様子などを学び、住吉神社の宮司さんへのインタビュー内容を考えた。考えた内容を中心に、宮司さんに当時の被害の状況、経験したことやその時感じたことなどをうかがった。宮司さんの話す内容のうち、必要なものについては事前に準備した住吉川、住吉小学校区周辺を含む

地図(紙)に書き込んだ。

b) 新生田川, 宇治川流域(神戸市中央区)

・日時: 2018年8月1日

・対象: 神戸市立渚中学校 防災ジュニアリーダー生徒  
事前に六甲砂防が当時の経験者からインタビューを行った。インタビューの内容は水害当日の様子, 学校から家に避難する時の光景などであった。渚中学生徒のまちあるきとして、その経験者が当時たどった小学校から自宅までの道のりを歩くというフィールドワークを実施した。また、神戸市立中央図書館で須磨区千守川から灘区石屋川間にある各流域ごとに描かれた当時の被災状況の神戸大水害絵巻物を見学した。

c) 都賀川流域(神戸市灘区)

・日時: 2018年8月8日

・対象: 神戸市立渚中学校 防災ジュニアリーダー生徒  
防災ジュニアリーダーの生徒は2チームに分かれ、流域の南北それぞれを担当し、過去の写真の位置を特定するためのまちあるきを実施した。北側では「神戸アーカイブ写真館」、南側では「灘区新在家ふれあいのまちづくり協議会」に協力をいただいた(写真1)。生徒は過去の写真をもとにまちあるきを実施し、当時と同じ位置からの写真を撮影したり、インタビュー内容を記録した。また、スマートフォンでGISのアプリケーションを用いて、電子地図上に写真と共にエピソードを入力した。

d) 新湊川流域(神戸市長田区)

・日時: 2018年7月31日

・対象: 常盤女子高等学校 生徒会

常盤女子高校生徒は長田神社の宮司さんの指導により、神社にて過去の写真の被災位置を特定し、被災時のエピソードとともに地図(紙)に書き込んだ。

(2) プロセスを通しての結果

以上の、中・高生が主役となって行ったインタビュー、ワークショップやフィールドワークにより、電子地図もしくは地図(紙)上に阪神大水害の被災箇所、当時のその箇所の被災写真、そして当時のエピソードを書き込んだ。

都賀川と新生田川流域に関しては、GISアプリケーションのデジタル地図上に被災地点、写真、そしてエピソードの入力は終了している。残りの住吉川、宇治川、そして新湊川については今後電子地図上に被災の情報を入力し、阪神大水害のデジタルアーカイブを構築していく予定である。



写真1 都賀川におけるまちあるきの様子



図1 GISアプリケーション

### 3. まとめ

災害などの過去に起こったことに目を向け、そこから教訓を引き出し、社会的な記憶として保存、継承することは重要である。

本研究では、阪神大水害を身をもって経験した方へのインタビューや当時の写真を用いて、中・高生を対象にしたまちあるきやワークショップを実施した。このプロセスを通して、阪神大水害の記憶と記録を次世代に継承するデジタルアーカイブの構築を目指しているが、この構築プロセスに中・高生が参加することは「次世代に記憶と記録を継承する」という趣旨に合致し、また教育的にも意義深いと考える。

### 謝辞

本研究を通してご協力いただいた、国土交通省、神戸常盤女子高等学校、神戸市立住吉中学校、神戸市立渚中学校の皆様にご心より感謝を申し上げます。

### 参考文献

- 1) 神戸市 HP 過去に神戸市で起きた水害(昭和の3大水害)  
[http://www.city.kobe.lg.jp/life/town/river/suigaisona/02kako\\_02.html](http://www.city.kobe.lg.jp/life/town/river/suigaisona/02kako_02.html) (2018年9月19日参照)
- 2) 神戸 災害と戦災 資料館 神戸の水害の概要  
<http://www.city.kobe.lg.jp/safety/disaster/flood/flood02.html> (2018年9月19日参照)
- 3) 国土交通省気象庁 HP  
[http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly\\_s3.php?prec\\_no=63&block\\_no=47770&year=&month=&day=&view=p5](http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/view/monthly_s3.php?prec_no=63&block_no=47770&year=&month=&day=&view=p5) (2018年9月19日参照)
- 4) 六甲砂防 砂防施設の整備  
<https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/disaster/measure/facility.php> (2018年9月20日参照)
- 5) 六甲砂防 六甲山地の砂防事業史  
[https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/disaster/measure/history\\_rokkosabo.php](https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/disaster/measure/history_rokkosabo.php) (2018年9月20日参照)